

言語文化	単位数	2 単位	学科・学年・学級	
------	-----	------	----------	--

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようとする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 使用教科書など

使用教科書	東京書籍「新編言語文化」(言文 002-901)
副教材など	「新編言語文化学習課題ノート」(準拠ノート)／「新総合図説国語」／「よくわかる新選古典文法」／「新選古典文法ノート」／「新徹底理解高校漢文」／「新徹底理解高校漢文ワーク」／古語辞典／その他、QR コンテンツ(教科書)、指導用 DVD-ROM 収録の補助資料など

3 評価の3観点と学習指導要領との対応

平成 30 年告示の学習指導要領では、評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つとなった。

学習指導要領との対応は以下のとおりである。

- ・「知識・技能」：学習指導要領の〔知識及び技能〕について指導したことを評価する。
- ・「思考・判断・表現」：学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕について指導したことを評価する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」：学習指導要領に直接該当する項目はないが、次の 2 つの側面を評価することが求められている。
 - ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面。
 - ②①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

4 「年間指導計画例」の見方

本資料の各項目の概要は、以下のとおりです。

《薄いグレーの見出し》

- ・学期と各編の単元番号と名称、配当月を示した。

《領域・教材名・ページ数・配当時数》

- ・領域（書く／読む）、教材名、ページ数、配当時数を示した。

《学習指導要領との対応》

- ・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示した。

記号の意味

〔知技〕 …… 「知識及び技能」の指導事項

〔思判表〕 … 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

（活）………… 「思考力、判断力、表現力等」の言語活動例

《学習目標》

- ・附録「この教科書で学ぶこと」に掲載の学習目標を示した。

《学習活動例》

- ・配当時数の中で考えられる学習活動の例を示した。

記号の説明

*………… 指導上の留意点や別案

《評価規準例》

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準例を示した。
- ・「知識・技能」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔知識及び技能〕の指導事項の文言をそのまま用いて、文末を「～している。」とした。
- ・「思考・判断・表現」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の文言をそのまま用いて、冒頭を「（領域名）において、」として領域を明示し、更に文末を「～している。」とした。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は、扱っている全ての指導事項について設定した。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、次の4つの内容を全て含め、各教材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫しながら設定している。また、文末は「～しようとしている。」とした。

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを發揮してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

記号の意味

- [知技] ……「知識・技能」の評価規準例
- [思判表] …「思考・判断・表現」の評価規準例
- [主] ……「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

◆年間指導計画例

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領と の対応	学習目標	学習活動例 (＊は指導上の留意点など)	評価規準例
■ 1 学期				
現代文編 1 隨筆（4月）				
読む さくらさくらさくら P 10 2 時間	[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、イ	・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	<p>＜第1時＞</p> <p>1 桜に対するイメージや筆者について知っていることを発表する。</p> <p>2 本文を通読し、三つの部分に分けて、それぞれの話題をまとめる。（手引き1）</p> <p>3 第一段における要点がどの部分に示されているかを考え、それが本文全体でどのような意味を持つか考察する。</p> <p>＜第2時＞</p> <p>1 具体例から日本と外国での桜に対する感じ方や考え方の違いを理解する。（手引き2・3）</p> <p>2 第三段を音読し、短歌三首の内容と詠まれた心情について考える。（手引き4）</p> <p>3 短歌の内容と詠まれた心情についての考察を踏まえて、筆者の桜への思いを整理する。（手引き5）</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 <p>[主]進んで日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理しようとしている。</p>
読む 〔言語〕「花」といえば 「桜」? P 16 1 時間	[知技] (1)ア [思判表] 読むこと(1)エ ㊂ 読むこと(2) ア	・現代の言語文化に息づいている古典の常識について興味を持つ。	<p>1 「さくらさくらさくら」(10ページ)に「和歌の世界では、『花』といえば『桜』を指す」という内容が書かれていたことを確認する。</p> <p>2 古典文学において、「山」や「祭」という言葉が、どの「山」や「祭」を指して用いられていたのかを調べる。（課題1）</p>	<p>[知技] 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <p>[思判表] 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>[主]進んで現代の言語文化に息づいている古典の常識</p>

			<p>3 「小倉百人一首」から、「花」と詠んで「桜」を歌っている和歌を探す。（課題 2）</p> <p>4 「花」が「桜」の意味で用いられている言葉にはどのようなものがあるか調べる。（課題 3）</p> <p>5 「桜」についてふだんどのように感じているかまとめ、発表する。（課題 4）</p>	<p>について理解し、学習課題に沿って、小倉百人一首から「花」と詠んで「桜」を歌っている和歌を探し、「桜」についてふだんどのように感じているか考え、発表しようとしている。</p>
読む 心の自由〔言語〕 P 18 1 時間	<p>[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、イ</p>	<p>・「旅」と「物語」の共通性について理解し、どのようなときに「心の自由」を感じるのか考える。</p>	<p>1 「旅」と「物語」に対するイメージや経験について発表する。</p> <p>2 「旅」と「物語」の似ているところを意識しながら、本文を通読する。（手引き 1）</p> <p>3 文章を書くことに対する筆者の思いを捉える。（手引き 2・3）</p> <p>4 「旅」と「物語」の共通点について整理する。（手引き 4）</p> <p>5 題名にも注意し、「心の自由を感じてください。」と述べる筆者の思いについて考える。（手引き 5）</p> <p>6 筆者がアドバイスする方法で窓の外の風景を描写した文章を書き、発表する。（言語活動）</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 <p>[主] 進んで筆者のものの見方、感じ方、考え方を捉えて随筆を読み味わい、学習課題に沿って、「旅」と「物語」に対する筆者の思いを捉えようとしている。</p>
古文編 1 古文入門（5月）				
読む 古文に親しむ P 124 1 時間	<p>[知技] (1)ア／(2)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア</p>	<p>・それぞれの文章の、リズムや調子の違いを感じ取る。</p>	<p>□古文と現代文の違いについて確認する。</p> <p>1 古文の代表作品の冒頭を音読する。</p> <p>2 現代とは仮名遣いが違うことを知る。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文

			3 暗唱し、古文のリズムや調子を体感する。(手引き 1・2)	化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思判表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主】進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って古文のリズムや調子を感じ取ろうとしている。
読む 児のそら寝 ●古文学習のしるべ1 古文の言葉と仮名遣い	P 128 P 130 1 時間	[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア [知技] (2)ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア	・歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。 1 本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。(手引き 1・古文学習のしるべ 1) 2 児の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味について考える。(手引き 2・3) 3 現代語訳する際の注意点を理解する。(古文学習のしるべ 1)	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 【思判表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主】進んで歴史的仮名遣いについて理解し、学習課題に沿って説話のおもしろさを読み取ろうとしている。
読む 検非違使忠明	P 132	[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読む	・文語の品詞について理解し、登場人物の行動や場面の描	1 歴史的仮名遣いに留意し、本文を音読する。 2 登場人物の行動や場面の描写を読み取る。(手引き 1・2)

1時間	こと(1)ア	写を読み取る。	3 当時の人々の信仰について理解する。(手引き 3) 4 古語の品詞について理解する。(古文学習のしるべ 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>[主]進んで文語の品詞について理解し、学習課題に沿って登場人物の行動や場面の描写を読み取ろうとしている。</p>
読む 用光と白波 ●古文学習のしるべ2 古語を調べるために P 134 P 136 1時間	[知技] (1)ア、 ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読む こと(1)ア [知技] (2)ウ、エ [思判表] 読む こと(1)ア	<ul style="list-style-type: none"> ・文語の品詞について理解し、登場人物の心情を読み取る。 	1 歴史的仮名遣いに留意し、本文を音読する。 2 用光と海賊の行動及び心情を読み取る。 (手引き 1・2) 3 話末評語の意味と作者の意図を考える。 (手引き 3) 4 古語の品詞や活用について理解し、古語辞典の引き方に慣れる。 (古文学習のしるべ 1・2)	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 <p>[思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p>

				[主] 進んで文語の品詞について理解し、学習課題に沿って登場人物の心情を読み取ろうとしている。
読む 絵仏師良秀 ■古文の窓1 古典から生まれた近現代の小説を読む ●古文学習のしるべ3 用言の活用／係り結び／仮定条件と確定条件 1時間	P 138 P 141 P 142	[知技] (1)ア、ウ、エ/(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア [知技] (2)ア、カ [思判表] 読むこと(1)エ [知技] (2)ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア	<ul style="list-style-type: none"> 文語の活用について理解し、叙述を基に人物像を読み取る。 <p>1 語の意味を確認しながら本文を音読する。 2 人々と良秀の言動を読み取る。 3 良秀の人物像について考える。（手引き1・2） 4 用言の活用、係り結び、接続助詞「ば」の用法を理解する。（古文学習のしるべ2・3）</p> <p>□四つの説話の中から、興味・関心を持った作品について話し合う。 □古文を読む基礎について復習する。（古文学習のしるべ1・2・3）</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>[主] 進んで文語の活用について理解し、学習課題に沿って叙述を基に人物像を読み取ろうとしている。</p>
漢文編1 漢文入門（5～6月）				

<p>読む 訓説の基本 〔言語〕漢字の読みと意味——漢和辞典を活用しよう P 218 2時間</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア</p> <p>[知技](1)イ、ウ／(2)エ [思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の特色を知り、訓説のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係について理解する。 <p>【訓説】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本構造「主語・述語」と句読点・送り仮名・書き下し文について理解する。 2 基本構造「修飾語・被修飾語」を理解し、句読点・送り仮名・書き下し文に慣れる。 3 基本構造「述語・目的語（補語）」と返り点について理解し、書き下した上で現代語訳する。（手引き 1） 4 漢文訓説に関する基本的な知識および漢文の基本構造について確認する。（手引き 2） <p>【格言】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「返読文字」の五つの格言を音読し、既習の訓点の知識を確認し、返読文字と一レ点の用法について理解する。（教科書 221 ページ手引き 1・2／223 ページ書き下し文のきまり） 2 「置き字」の三つの格言を音読し、助字、置き字と上・中・下点の用法について理解し、書き下し、現代語訳する。（書き下し文のきまり・主な置き字とその用法） 3 「訓説」で学習した訓点の知識に加え、返り点、返読文字、置き字について整理した上で書き下し文にする。（教科書 223 ページ手引き 1・2） <p>【再読文字】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「未来」「将来」の熟語から、再読文字の用法を理解する。 2 「再読文字」の漢文を、訓点に従って音読し、書き下し、現代語訳して、各再読文字の用法について確認する。（再読文字の種類と用法） 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓説のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 <p>[思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>[主]進んで漢文の特色や訓説のきまりを理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。</p>
--	--	---	--

			<p>3 「学習の手引き 1・2」に取り組み、再読文字の用法に慣れる。 (教科書 226 ページ手引き 1・2)</p> <p>□句読点・返り点・送り仮名の有効性について再確認する。</p> <p>□身近な二字・三字・四字の熟語の意味を考え、漢文の構造を確認するとともに、訓点を施す。</p> <p>□「言語活動」を利用して、漢和辞典の項目と利用法を確認する。 (言語活動 漢字の読みと意味)</p> <p>□漢字の読みと意味の関係を確認し、漢字への理解を深める。 (教科書 227 ページ課題 1・2)</p>	
読む 故事成語—三編 [言語] P 228	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、エ、オ ④ 読むこと(2)イ</p> <p>[知技] (2)ア、ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 故事成語の元になつた話を読むことを通して、漢文の読み慣れ親しむ。 	<p>□中学校で学習した故事成語について、意味や背景等を発表し合い、その学習を通して得たものを再確認する。</p> <p>□知っている「故事成語」を答えさせ、その背景となる「寓話」を国語便覧等を使ってグループ等で調べさせる。</p> <p>□故事成語の背景に「寓話・逸話」があることを確認する。</p> <p>【守株】</p> <p>1 書き下し文を参照しながら、本文を訓点に従って正確に読めるようになるまで、繰り返し音読する。 (手引き 1)</p> <p>2 書き下し文のきまりを確認する。 (手引き 2)</p> <p>3 脚注や語句・句法の説明を手がかりに、現代語訳を丁寧に読み、内容を深く理解する。 (手引き 3)</p> <p>4 「守株」に込められた意図を理解する。 (手引き 4)</p> <p>【五十歩百歩】</p> <p>1 書き下し文を参照しながら、訓点に従って正確に読め</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。
■漢文の窓 1 名前の表し方 P 234 3 時間				

		<p>るようになるまで、繰り返し音読する。</p> <p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。 (手引き 1・2)</p> <p>3 本文はどのようなことを伝えようとした話なのか、前書きを参考にして意図を理解する。(手引き 3)</p> <p>4 グループワーク等で「五十歩百歩」の例を出し合い、短文を作り発表する。(手引き 4)</p> <p>【借虎威】</p> <p>1 書き下し文を書くことで、書き下し文のきまりを理解したか確認する。</p> <p>2 書き下し文を参照しながら、本文を訓点に従って正確に読めるようになるまで、繰り返し音読する。(手引き 1)</p> <p>3 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。 (手引き 1・2)</p> <p>4 虎と狐がそれぞれどのような存在として描かれているか、話し合う。(言語活動)</p> <p>5 本文はどのようなことを伝えようとした話なのか、「寓意」を理解する。</p> <p>□ 故事成語が、今も身近にあって、我々のあり方・生き方を考える言葉であることを理解する。(手引き 4)</p> <p>□ 一人の人間について、現代日本の一般とは違い、複数の「名前」があることを理解する。(漢文の窓 1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主]進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、故事成語の元になった話を読み、故事成語の果たす役割について考えようとしている。</p>
--	--	--	---

現代文編2 小説1（6月）

読む とんかつ	<p>〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ 〔思判表〕読むこと(1)ア、ウ</p> <p>P24 3時間</p>	<p>・会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 これまでに読んだ小説の中で、おもしろかったもの、印象に残ったものを挙げ、小説を読む樂しさや意義について話し合う。</p> <p>2 本文を通読し、印象に残った点を話し合う。</p> <p>3 三つに分けられたそれぞれの部分に描かれた出来事</p>	<p>〔知技〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それら
------------	--	--	--	--

		<p>を、登場人物・場面などに注意してまとめる。(手引き 1)</p> <p>4 親子の描写を着実に押さえて、二人の性格や境遇について考えられることを箇条書きにし、発表し合う。</p> <p><第2時></p> <p>1 女主人の、客の親子に対する見方の変化を順次まとめる。(手引き 2)</p> <p>2 第一段が全体の中で果たす役割を、前時の 4 と関連させて考える。</p> <p>3 親子の境遇について、母親の「問わず語り」〔三〇・12〕の部分を中心に、簡潔にまとめる。(手引き 3)</p> <p>4 「とんかつ」を夕食に出した宿の女主人、それを食べる親子の心情を、それぞれ推測してみる。(手引き 4)</p> <p><第3時></p> <p>1 一年足らずの間に、母親は老け、息子は成長している。この変化の表れている箇所について考える。(手引き 5)</p> <p>2 女主人の、宿を再訪した母親と少年に対する通り一遍でない思いやりが、それぞれに対して表れている言動を押さえる。</p> <p>3 題名を考慮に入れて、この小説の主題をまとめる。(手引き 6)</p> <p>4 作者とその文学について学ぶ。</p>	<p>の文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主] 進んで本文に描かれた出来事や会話、行動の描写を捉え、学習課題に沿って、登場人物の心情とその変化を読み取り、主題について考えようとしている。</p>	
読む オレンジの実る中庭 <small>〔言語〕</small>	<small>P36</small>	<p>[知技] (1)ア、イ、ウ、エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、オ</p> <p>(2) 読むこと(2)イ</p> <p>[知技] (2)カ</p> <p>[思判表] 読む</p>	<p>・場面や人物の設定における特徴を捉え、作中の「オレンジ」が持つ意味について考える。</p> <p><第1時></p> <p>1 場面や人物の設定に着目して、本文を通読する。(手引き 1)</p> <p>2 本文に描かれている出来事を順を追って整理する。(手引き 2)</p> <p>3 若い兵士の寝顔を見なおしたときの「私」の思いを捉える。(手引き 3)</p> <p><第2時></p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。

2時間	こと(1)イ、ウ		<p>1 中庭のオレンジの木の話を聞いた若い兵士の様子や気持ちを捉える。(手引き 4 ①)</p> <p>2 「右手と左手は握手ができない」という言葉の意味と、そう語る若い兵士の気持ちについて考える。(手引き 4 ②)</p> <p>3 最後の部分でオレンジがドアの前にあった理由について、話し合う。(言語活動 1)</p> <p>4 「わたし」やモズ、若い兵士にとって、オレンジにはどのような意味があったのかを考え、話し合う。(言語活動 2)</p> <p>5 小説の主題について自分なりに考えて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主] 進んで本文の内容や構成、展開を的確に捉え、学習課題に沿って登場人物の心の動きを読み取り、小説の内容や主題について理解を深めようとしている。</p>
-----	----------	--	--

古文編2 隨筆（7月）

読む 徒然草〔言語〕 ■古文の窓2 猫また	P 146 P 149	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、オ (活) 読むこと(2)イ [知技](2)ア、イ [思判表] 読むこと(1)エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隨筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 	<p>□『徒然草』と作者について、必要な知識を得る。</p> <p>【亀山殿の御池に】</p> <p>1 全文を音読し、あらすじを読み取る。 (古文の窓2) 2 「大井の土民」と「宇治の里人」との、水車造りの能力を比較してまとめる。 (手引き 1) 3 主題を考える。 (手引き 2)</p> <p>【奥山に、猫またといふものありて】</p> <p>1 全文を音読し、あらすじを読み取る。 (古文の窓2) 2 「猫また」に関する二つのうわさの内容の違いを考える。また、どのような法師であるかを理解する。 (手</p> <p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文
------------------------------------	--------------------	--	--

■古文の窓3 兼好法師、こんな一面も P 151 3時間	[知技](2)ア、イ [思判表] 読むこと(1)エ		<p>引き 1)</p> <p>3 「猫また」に襲われた法師の行動を捉え、その心理を想像する。 (手引き 2)</p> <p>4 最後の一文を解釈し、その効果を考える。 (手引き 3)</p> <p>【雪のおもしろう降りたりし朝】</p> <p>1 全文を音読し、主語を確認しながらあらすじを読み取る。</p> <p>2 相手が「返事」に書いてきた内容を読解する。 (手引き 1)</p> <p>3 作者の感慨を読み取る。 (手引き 2)</p> <p>4 「亡き人」の人物像について、話し合う。 (手引き 3)</p> <p>【今日はそのことをなさんと思へど】</p> <p>1 話のあらすじを読み取る。</p> <p>2 本文の主旨を理解する。 (手引き 1・2)</p> <p>3 作者の考え方について話し合う。 (手引き 3)</p> <p>□四つの教材について、作者は伝聞したことや自分の考えをどのようにまとめているか、考える。(言語活動)</p> <p>□『徒然草』や作者について、知識を深める。(古文の窓 3)</p>	<p>化的背景などを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>[主] 進んで文語のきまりや古典特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉えようとしている。</p>
読む 枕草子〔言語〕 P 154	[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、オ	・作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	<p>□平安時代の女流文学および隨筆文学について知る。</p> <p>【うつくしきもの】</p> <p>1 本文を通読し、何を「うつくし」として取り上げているのか、整理する。 (手引き 1)</p> <p>2 『枕草子』の内容の三分類について知り、この章段が類聚的章段に当たることを理解する。</p> <p>3 現代版「○○もの」を書く。 (言語活動)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。
■古文の窓4 牛車 P157	[知技](2)ア、イ [思判表] 読むこと(1)エ		<p>【五月ばかりなどに山里に歩く】</p> <p>1 本文を通読する。</p>	
■古文の窓5	[知技](2)ア、カ			

『源氏物語』に触れる P158	[思判表] 読むこと(1)エ [知技] (2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア		<p>2 第一段落の情景描写の特徴をまとめる。(手引き 1) 3 第二段落で描かれた出来事について考える。(手引き 2・古文の窓 4) 4 本文全体から読み取れる作者の気分をまとめる。(手引き 3)</p> <p>□同じ日本語でも時代が変わると意味も変化してくることを、「うつくし」をはじめとする古今異義語を通して理解する。 □「古文の窓 5 『源氏物語』に触れる」を読み、知識を得る。(古文の窓 5) □「古文学習のしるべ4 助動詞・助詞」を学習する。(古文学習のしるべ4)</p>	<p>化的背景などを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主]進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題に沿って、作者のものの見方や感じ方、考え方を捉えたり、自分と関係づけて考えたりしようとしている。</p>
--------------------	---	--	--	---

■ 2 学期

現代文編3 詩歌（9月）

読む 柳あをめる【短歌】 P54	[知技](1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、ウ	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。	<p>1 短歌とはどのようなものか、どのような短歌を知っているかを発表する。 2 掲載された短歌を音読し、歌のリズムを味わう。(手引き 1) 3 それぞれの歌について、読解・鑑賞をして話し合う。(手引き 2・3)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。
------------------------	--------------------------------	---------------------------------------	--	--

<p>■短歌の読み方</p> <p>P 57 1 時間</p>	<p>[知技] (2)力 [思判表] 読むこと(1)イ、ウ</p>	<p>4掲載された短歌の中から印象に残った一首を選んで、感想文を書く。(手引き 4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主]進んで短歌の特徴や表現効果を理解し、学習課題に沿って、それぞれの歌にこめられた情景や心情を読み取ろうとしている。</p>
<p>読む 雪の深さを【俳句】</p> <p>P 58</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 	<p>1五・七・五の定型・季語・切れ(切れ字)・取り合わせなど俳句の基礎知識、概念を確認し、知っている俳句・俳人などを発表し合うことで、俳句に対して興味を持つ。</p> <p>2掲載された俳句を音読し、リズムを味わう。(手引き 1)</p> <p>3それぞれの句について、読解・鑑賞をして話し合う。(手引き 2・3)</p> <p>4掲載された俳句の中から印象に残った一句を選んで、感想文を書く。(手引き 4)</p>
<p>■俳句の読み方</p> <p>P 61 1 時間</p>	<p>[知技] (2)力 [思判表] 読むこと(1)イ、ウ</p>		<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主]進んで俳句の特徴や表現効果を理解し、学習課題に沿って、それぞれの句の主題を読み取ろうとしている。</p>

				る。
読む 冬が来た	P 62 1 時間	[知技](1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩とリフレーンの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考える。 	<p>1 この詩のリズムや比喩表現に注意しながら音読する。(手引き 1)</p> <p>2 第一連の冬の到来、第二連の冬の定義、第三連の冬への思い、第四連の冬の強さの確認という構成とその内容を理解する。(手引き 2)</p> <p>3 特に第三連の「冬は僕の餌食だ」を中心として、作者の思いを考える。(手引き 3)</p> <p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主] 進んで表現の効果を理解して詩を読み味わい、学習課題に沿って、作者のものの感じ方について考えようとしている。</p>
読む 少年の日	P 64 1 時間	[知技](1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、エ	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや形式に注意して詩を読み味わい、作者の物事に対する感じ方について考える。 	<p>1 この詩のリズムに注意しながら音読する。(手引き 1)</p> <p>2 この詩の表現上の工夫について、気づいた点を挙げる。(手引き 2)</p> <p>3 1～4の各連に描かれた情景を読み取り、「少年」の心情について考える。(手引き 3)</p> <p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>[主] 進んでリズムや形式に注意して詩を読み味わい、学習課題に沿って、作者の物事に対する感じ方について</p>

				て考えようとしている。
読む I was born P 66 1時間	[知技](1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、オ	・散文詩を読み、蜉蝣(かげろう)のイメージに託された生命への思いを深く味わう。	1 詩を音読して、全体を把握する。 2 散文詩の特徴を理解し、独特的な表現やリズムを味わう。(手引き1・詩の読み方) 3 「父」に話しかけるまでの「僕」の気持ちの流れを読み取り、まとめる。(手引き2) 4 「父」の話の内容を理解し、そこにこめられた「父」の思いと、「父」の話を聞いた「僕」の思いを読み取り、まとめる。(手引き3・4) 5 題名にこめられた作者の思いについて話し合う。(手引き5)	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 [主] 進んで散文詩を読み味わい、学習課題に沿って、詩や題名にこめられた作者の思いについて考えようとしている。
読む 〔言語〕歌詞の意味や表現技法について考えよう P 70 ■詩の読み方 P 72 1時間	[知技] (1)ウ [思判表] 読むこと(1)ウ、オ ㊂ 読むこと(2)オ [知技] (2)カ [思判表] 読むこと(1)イ、ウ	・目頃耳にする歌謡曲の歌詞にも見られる表現技法について知り、韻文への理解を深める。	1 「春の歌」を通読し、比喩、リフレーン、呼びかけの表現技法について確認する。 2 比喩、リフレーン、呼びかけ以外に用いられている表現技法について考える。(課題1) 3 この歌詞にはどのようなメッセージがこめられているか考える。(課題2) 4 好きな歌詞を選び、どのような表現技法が用いられているか調べる。(課題3)	[知技] ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。

				[主]進んで歌謡曲の歌詞に見られる表現技法について知り、学習課題に沿って、韻文への理解を深めようとしている。
古文編3 詩歌（10月）				
読む 折々のうた〔言語〕 P164	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ、オ／(2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ、オ (活) 読むこと(2)ア</p> <p>[知技](1)オ、(2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 <p>□各自の好きな短歌・俳句等を自由に挙げてみる。 □それぞれの短歌・俳句の良いところを指摘し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『万葉集』について、概略を理解する。 2 「淡海の海…」「春の苑…」の歌を音読し、解説文を参照しながら現代語訳する。（手引き1・2） 3 筆者は、語句の解説の他、これらの歌のどのような点について解説しているか、考える。（言語活動1） 4 『古今和歌集』について、概略を理解する。 5 「五月待つ…」「秋来ぬと…」の歌を音読し、解説文を参照しながら現代語訳する。（手引き1・2） 6 筆者は、語句の解説の他、これらの歌のどのような点について解説しているか、考える。（言語活動1） 7 『新古今和歌集』について、概略を理解する。 8 「梅の花…」「志賀の浦や…」の歌を音読し、解説文を参照しながら現代語訳する。（手引き1・2） 9 筆者は、語句の解説の他、これらの歌のどのような点について解説しているか、考える。（言語活動1） 10 「志賀の浦や…」の歌は、本歌とどのような違いがあるか、考える。（古文学習のしるべ5） 11 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』における詠みぶりの違いを考える。 12 日本の歌の中から、後世に伝えたいと思う作品を一つ選び、『折々のうた』の筆者の解説を踏まえて、紹介文を書く。（言語活動2） 13 12をもとに、発表し合う。（言語活動2） 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 	<p>[主] 進んで、和歌における表現の特色を理解し、学習課題に沿って、詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。</p>
●古文学習のしるべ5 和歌 P172 3時間				

			□「古文学習のしるべ5」を読み、引用されている和歌を、修辞に注意して現代語訳する。(古文学習のしるべ5)	
書く 〔言語〕 短歌を作る P 175 2時間	[知技](1)オ、(2) ウ [思判表] 書くこと(1)イ／ ④書くこと(2)ア	・自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書く。	<p>□『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の中から好きな歌を一首選び、その理由を発表する。</p> <p>1 和歌の歴史や伝統について、概略を理解する。 2 「本歌取り」の技法について確認する。 3 Aに倣い、「君がため」「わが」「つつ」を用いて、フレーム短歌を作り、推敲する。(課題① 1) 4 Bに倣い、「くるしみは……時」「たのしみは……時」「かなしみは……時」などの形でフレーム短歌を作り、推敲する。(課題① 2) 5 作った短歌を短冊に書き、作品に仕上げる。(課題②) 6 作品を貼り出したり、コピーして配ったりして、表現の仕方などについて互いに批評し合い、話し合う。</p> <p>□短歌を実作する前と、実作した後で、我が国の言語文化としての和歌(短歌)に対する考え方か変わったか、話し合う。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。</p> <p>[主]進んで短歌の構成や語句などの表現の仕方を工夫し、学習課題に沿って、自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って効果的に書こうとしている。</p>

漢文編2 漢詩（10月）

読む 絶句と律詩一七首 〔言語〕 P 236 4時間	[知技] (1)ア、 ウ、エ／(2)ア、 イ、ウ [思判表] 読む こと(1)ア、イ、 ウ ④読むこと(2) イ、ウ	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	<p>□唐という時代の特色、日本との関係などを理解する。</p> <p>□「漢文の窓2 漢詩の形式ときまり」を読み、近体詩の形式と最低限のきまりを理解する。(漢文の窓2)</p> <p>【鹿柴】【春晓】(孟浩然)【春晓】(辛田露伴)</p> <p>1 それぞれの詩の詩形と押韻を確認する。(手引き3・漢文の窓2) 2 それぞれの詩を訓点に従って正確に音読みし、書き下す。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文
--	---	---------------------------------	---	--

		<p>3 展開に注意して現代語訳し、「自然をうたう」という章立てを意識しつつ、うたわれている状況を考える。 (手引き 1)</p> <p>4 「自然をうたう」という章立てを意識しつつ、どのような心情がうたわれているかを考える。(手引き 2)</p> <p>5 理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。(手引き 4)</p> <p>6 孟浩然と幸田露伴の「春曉」を読み比べて、類似点や相違点を考える。(言語活動)</p> <p>【黄鶴楼送孟浩然之广陵】【贈汪倫】</p> <p>1 それぞれの詩の詩形と押韻を確認する。(手引き 3・漢文の窓 2)</p> <p>2 それぞれの詩を訓点に従って正確に音読し、書き下す。</p> <p>3 展開に注意して現代語訳し、「友情をうたう」という章立てを意識しつつ、うたわれている状況を考える。 (手引き 1)</p> <p>4 「友情をうたう」という章立てを意識しつつ、どのような心情がうたわれているかを考える。(手引き 2)</p> <p>5 理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。(手引き 4)</p> <p>【涼州詞】【春望】</p> <p>1 それぞれの詩の詩形と押韻および対句を確認する。 (手引き 3・漢文の窓 2)</p> <p>2 それぞれの詩を訓点に従って正確に音読し、書き下す。</p> <p>3 展開に注意して現代語訳し、「人生をうたう」という章立てを意識しつつ、うたわれている状況を考える。 (手引き 1)</p> <p>4 「人生をうたう」という章立てを意識しつつ、どのような心情がうたわれているかを考える。(手引き 2)</p>	<p>化との関係について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主]進んで漢詩の形式ときまりを理解し、学習課題に沿って、漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しもうとしている。</p>
--	--	--	---

			<p>5 理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。（手引き4）</p> <p>6 漢詩に関する規則と特徴について復習し、多様で魅力にあふれた漢詩の世界を読み味わう。</p>	
読む 〈漢詩と日本文学〉 P 242 1時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ア、イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)エ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩とそれを踏まえた古文を読み、漢文が日本文学に与えた影響について知る。 	<p>1 漢文を踏まえた日本文学について、概略を理解する。</p> <p>2 「香炉峰下、…」と「雪のいと高う降りたるを」を音読みし、内容を捉える。</p> <p>3 「雪のいと高う降りたるを」が、どのように漢詩を踏まえているか考える。</p> <p>4 「雪のいと高う降りたるを」が漢詩を踏まえていることの意味や効果について考える。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 <p>[思判表]「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>[主]進んで作品の歴史的・文化的背景や他の作品との関係を理解し、学習課題に沿って、漢文が日本文学に与えた影響について考えようとしている。</p>
書く 〔言語〕訳詩を書く P 243 ■漢文の窓2 漢詩の形式ときまり P 244	<p>[知技] (1)ウ／(2)ウ、エ</p> <p>[思判表] 書くこと(1)ア、イ</p> <p>[知技] (2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元の漢詩の魅力が効果的に伝わるよう、表現を工夫して訳詩を書く。 	<p>□自分の選んだ漢詩の内容を確認し、具体的にイメージを膨らませる。(課題1・2①・②)</p> <p>□訳詩を書き、推敲する。(課題2③・④)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言

1 時間			<p>葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。</p> <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 ・「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 <p>[主] 進んで言葉の選び方や表現の仕方を工夫し、学習課題に沿って、元の漢詩の魅力が伝わるように訳詩を書こうとしている。</p>
------	--	--	--

現代文編4 小説2 (11月)

読む 羅生門 [言語] P76 3時間	<p>[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、オ (注) 読むこと(2)イ</p>	<p>・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。</p>	<p><第1時></p> <p>1 全文を通読し、時代背景を確かめる。 (手引き1) 2 場面の変化に注意して、本文全体を四つの意味段落に分ける。 3 第一段を読み、「下人」の内面の状態をまとめる。(手引き3①) 4 「作者」の説明に従って、「下人」の行動を順を追って整理する。 5 「下人」の内面の変化を順を追って整理する。 (手引き2)</p> <p><第2時></p> <p>1 第二段を読み、「下人」の目が捉えた「羅生門」の樓上の情景を整理する。 2 「下人」と「老婆」について、比喩で表現した箇所を抜き出し、比喩の効果について考え、まとめる。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、
------------------------------	---	--	---	--

			<p>3 第三段、第四段を読み、「下人」と「老婆」の行動を順を追って整理する。</p> <p>4 「なるほどな、……大目に見てくれるであろ。」に述べられた「老婆」の主張について考え、それを聞いた「下人」が「引刺ぎ」をしようと思った理由を考える。 (手引き4・言語活動2)</p> <p><第3時></p> <p>1 「下人」の内面の変化を、変化のきっかけと関連づけながら、整理する。(手引き2・3②・4)</p> <p>2 「黑洞々たる夜」という表現に留意して、「老婆」のその後について考える。</p> <p>3 「下人の行方は、誰も知らない。」という終わりを踏まえて、「下人」がこの後、どうなったのかを想像し、話し合う。(手引き5)</p> <p>4 小説の主題について、自分なりに考えて発表する。</p> <p>5 「下人」と「老婆」の会話を、それぞれの人物になつたつもりで、役割読みする。(言語活動1)</p> <p>6 「老婆」の主張についてどのように考えるか、賛成、反対の立場に分かれて討論する。(言語活動2)</p> <p>7 さまざまな門の構造や役割について調べ、作中の羅生門の構造や役割がどういったものかを考える。(言語活動3)</p>	<p>自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p> <p>[主] 進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿って、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。</p>
読む 〔言語〕元になった古典作品と読み比べよう P92 2時間	<p>[知技] (1)ア [思判表] 読むこと(1)エ、オ ㊂ 読むこと(2) ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 古典を元にして作られた作品と、元の作品を読み比べ、理解を深める。 	<p><第1時></p> <p>1 古典作品を元に書かれた作品について理解する。</p> <p>2 原作（九三ページ）の本文のA～Dについて、「羅生門」で対応する箇所を探し、九二ページの(1)～(3)のいずれに該当するか考える。</p> <p>3 2をもとに原作と「羅生門」を比較し、「羅生門」で省略・変更されている点が果たす役割について考える。</p> <p><第2時></p>	<p>[知技] 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。

			<p>1 原作の波線ア～エについて、「羅生門」で対応する箇所を探し、九二ページの（1）～（3）のいずれに該当するか考える。（課題1）</p> <p>2 1で検討した中から、重要だと思うものを選び、「羅生門」の創作性にとってどのような意味を持つか、自分の考えをまとめ、話し合う。（課題2）</p> <p>3 原作の後半部分(九六ページ)の波線オ～ケについて、「羅生門」で対応する箇所を探し、九二ページの（1）～（3）のいずれに該当するか考える。（課題3）</p>	<p>[主]進んで古典を元にして作られた作品についての理解を深め、学習課題に沿って、古典を元にして作られた作品と原作との違いや創作性について考えようとしている。</p>
--	--	--	--	---

古文編4 物語（11月）

読む 伊勢物語 P178 2時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 	<p>□作品についての教師の解説を聞き、その概略を理解する。（古文の窓6）</p> <p>【芥川】</p> <p>1 本文を通読した後、『伊勢物語絵巻』（模本）と見比べて対応関係を知る。（手引き1）</p> <p>2 本文の記述から「女」の人物像を理解する。（手引き2）</p> <p>3 和歌を中心に、「男」の心情の推移を読み取る。（手引き3）</p> <p>【筒井筒】</p> <p>1 本文を音読した後、三つの場面に分けて、各場面の大意をノートにまとめる。（手引き1・古文の窓6）</p> <p>2 「筒井筒…」「くらべこし…」の歌に込められたそれぞれの心情を想像する。</p> <p>3 本文を精読し、筒井筒の女、高安の女の人物像を比較する。（手引き2）</p> <p>4 古今異義語の用法を確認する。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主] 進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確</p>
---------------------------	--	---	---	--

				に捉えようとしている。
読む 〔言語〕和歌を自分の言葉で書き換える P184	[知技] (2)ア [思判表] 読むこと(1)イ、ウ、オ ④ 読むこと(2)エ	・和歌を書き換えることを通して、解釈を深める。	1 平安時代の貴族にとって、和歌は重要なコミュニケーションツールであったことを確認する。 2 一八四ページ上段を参考に、「筒井筒…」「くらべこし…」の歌のメッセージの核心をまとめる。(課題1) 3 2を踏まえて、現代のコミュニケーションツールで伝え合うことを想定し、それぞれの歌を自分の言葉で書き換える。(課題2) 4 書き換えた作品を互いに読み合い、元の和歌と比較しながら、表現の工夫について批評し合う。(課題3)	[知技] ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 [主]進んでコミュニケーションツールとしての和歌の役割について理解し、学習課題に沿って、和歌を書き換えようとしている。

読む 〔言語〕『伊勢物語』と 絵画・工芸	P 185	[知技] (1)ア [思判表] 読む こと(1)ア、オ	・古典を元にした絵 画・工芸を通して、 文章の内容を捉え 直す。	1 『伊勢物語』が後世に与えた影響の一つに、絵画・工 芸があることを確認する。 2 一八五ページの①～③の絵画や工芸品が、「筒井筒」 の本文のどの部分を取り上げたものか考える。(課題 1) 3 ①～③と「筒井筒」の本文を比較して、気づいたこと を話し合う。(課題 2)	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあ ることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文 化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な 文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などに ついて理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容 や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えてい る。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や 他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深め ている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、 自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の 言語文化について自分の考えをもっている。 [主]進んで古典を元にした絵画・工芸について理解し、 学習課題に沿って、文章の内容を捉え直そうとしてい る。
■古文の窓 6 恋愛と結婚	P 186 1 時間	[知技] (2)イ、ウ [思判表] 読む こと(1)エ		□『伊勢物語』が、文学や芸能などの世界で、どのような 影響を及ぼしたか調べ、発表する。 □「歌物語」と呼ばれる『伊勢物語』における本文と和 歌との関係や役割について考える。 □「古文の窓 6」を読み、当時の恋愛や結婚について理 解する。(古文の窓 6)	
読む 平家物語 〔言語〕	P 187	[知技] (1)ア、 ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読む こと(1)ア、ウ、 オ 〔⑤〕 読むこと(2) イ	・軍記物語特有の表 現に注目しながら、 登場人物の言動や 心情を読み取る。	□「木曾の最期」に至るまでのいきさつを確認する。(古 文の窓 7) 【木曾の最期】 1 全文を通読して話の大筋をつかむ。(手引き 1) 2 敬語に着目し、会話の内容を読み取る。(古文学習の しるべ 6) 3 義仲に自害を勧める兼平の心情と、義仲の言動と心 情とを読み取る。(手引き 2) 4 第二段の兼平の奮戦を、描写に着目して読み取る。	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあ ることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それら の文化的背景について理解を深め、文章の中で使うこ とを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解して いる。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文 化的背景などを理解している。
■古文の窓 7		[知技] (2)イ			

『平家物語』のあらまし P194	[思判表] 読むこと(1)エ		5 義仲と兼平の心情に触れながら、それぞれの死の描かれ方について考える。(手引き 3) 6 本文全体を読んで印象に残った表現を取り上げ、その効果について話し合う。(言語活動) □文体を意識して、場面に応じた音読をする。	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 [主] 進んで軍記物語特有の表現などについて理解し、学習課題に沿って、登場人物の言動や心情を読み取ろうとしている。
●古文学習のしるべ6 敬語 P196 2時間	[知技] (2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア			

漢文編3 論語（12月）

読む 論語一八章 P246 4時間	[知技] (1)ア、 ウ、エ／(2)イ [思判表] 読むこと(1)ア、イ	・孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、孔子の思想に興味を持つとともに、ものの見方や考え方を豊かにする。	□教科書の注釈や巻末附録「中国文学史年表」などを参考にして、『論語』の成立と伝播、孔子の生きた時代背景、孔子の略歴を、ノートにまとめる。 【学ぶということ】 1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。 2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。 3 孔子の学問観について考える。(手引き1) 4 『論語』を典拠とした成語について調べる。(手引き2) 【人間を見つめる】 1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容
----------------------------	--	---	--	---

			<p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。</p> <p>3 孔子や弟子の人間観について考え、「忠」「信」、「巧言令色」や「仁」についても調べる。(手引き1・2)</p> <p>【政治を考える】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。</p> <p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。</p> <p>3 孔子の理想とする政治について考える。(手引き1)</p> <p>□孔子の思想を、学問観・人間観・政治観の三つに分けてノートにまとめる。</p> <p>□「漢文の窓3 孔子と弟子たち」(教科書254ページ)を読んで、孔子と弟子たちとの人間的な触れ合いを理解する。(漢文の窓3)</p>	<p>や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 <p>[主] 進んで『論語』に表れているものの見方や考え方について理解し、学習課題に沿って、自分のものの見方や考え方を豊かにしようとしている。</p>
読む 日本人の解釈 『論語』の注釈を読む P 250	<p>【知技】(1)ア、ウ、エ／(2)ア、イ</p> <p>【思判表】読むこと(1)イ、オ ④読むこと(2)ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人による『論語』の注釈を読み、日本での『論語』の受容について知るとともに、漢文を自分で解釈する力を養う。 	<p>□『論語』の記述がもとになった故事成語を確認する。</p> <p>□現代文や古文と同様に、漢文で扱う教材の中には、解釈や訓読の仕方が複数存在するものがあることを確認する。</p> <p>1 『論語』の解釈や注釈について、概略を理解する。</p> <p>2 親孝行についての質問に対して孔子が答えた言葉に、二つの方向性の解釈があることを理解する。</p> <p>3 伊藤仁斎の解釈がどのようなものであったかを読み取る。(問1)</p> <p>4 伊藤仁斎の考えが、AとBのどちらに当てはまるか考える。(問2①)</p> <p>5 自分はAとBのどちらに共感するか、理由を示しつつ、グループで話し合う。(問2②)</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>【思判表】</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで『論語』の注釈について理解し、学習課題に沿って、日本での『論語』の受容について知り、漢文を自分で解釈しようとしている。 ・進んで自分の考えを伝えるとともに、他の人の考えも参考にし、ものの見方・感じ方・考え方の多様性について理解しようとしている。
--	--	--	--

■ 3 学期

現代文編 5 小説 3 (1月)

読む 夢十夜 [言語] ■現代文の窓 1 小説へのいざない	P 98 P 108 3 時間	<p>[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、ウ ④ 読むこと(2)イ</p> <p>[知技] (1)ア／(2)ア [思判表] 読むこと(1)イ、エ</p>	<p>・表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。</p> <p><第1時></p> <p>1 夢の中の世界であることが分かる表現を押さえながら、本文全体を通読する。(手引き 1・4) 2 「第一夜」について、死ぬまでの「女」の様子と、「自分」に対する「女」の要望とを順を追ってまとめること。 3 「女」の死後の場面から、「女」に対する「自分」の心情について理解すること。</p> <p><第2時></p> <p>1 「真っ白な百合」の様子や「暁の星」から、「百合」が意味しているものを考える。(手引き 3) 2 「第六夜」を、前半と後半に分け、場所・時代・登場人物・出来事を整理すること。(手引き 5)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 <p>[思判表]</p>
--	---------------------------	---	---	--

			<p>3 「運慶」が仁王を彫っているときの特徴的な様子について読み取る。</p> <p><第3時></p> <p>1 彫刻に対する「若い男」の考えについて理解する。(手引き 6)</p> <p>2 「自分」が「仁王」を彫れない理由について、「明治」という時代に着目して考える。(手引き 7)</p> <p>3 二編の中でおもしろいと思った点を挙げ、なぜそう思ったのか話し合う。(言語活動 1)</p> <p>4 自分の好きな小説について、その魅力を伝える紹介文を書く。(言語活動 2)</p> <p>5 明治以降の文学の流れや特徴などについて、理解を深める。(現代文の窓 1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>[主]進んで文章の構成や展開、表現の特色などを捉え、学習課題に沿って、小説の中に展開する独自の世界を味わおうとしている。</p>
読む デューク ■現代文の窓 2 小説の冒頭——さまざま な工夫 P 121 2 時間	<p>[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、ウ</p> <p>[知技] (1)ア／(2)ア [思判表] 読むこと(1)イ、エ</p>	<p>・主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。</p>	<p><第1時></p> <p>1 場面の展開に注意しながら、本文を通読する。(手引き 1)</p> <p>2 「私」のデュークに対する気持ちを読み取る。(手引き 2)</p> <p>3 「私」が「少年」と出会った経緯を整理し、「『コーヒーごちそうさせて。』」と言った「私」の気持ちについて考える。(手引き 3)</p> <p><第2時></p> <p>1 「少年」と過ごす「私」の様子と気持ちの変化を読み取る。(手引き 4)</p> <p>2 「少年」が去った後もそこから動けなかった「私」の気持ちについて考える。(手引き 5)</p> <p>3 小説の冒頭部分のさまざまな工夫について理解を深める。(現代文の窓 2)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。

			<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>[主] 進んで文章の構成や展開、表現の特色などを理解し、学習課題に沿って、主人公の心情の変化を読み取り、表現に注意して話の展開を捉えようとしている。</p>
--	--	--	--

古文編5 紀行（2月）

読む 奥の細道	[知技] (1)ア、 ウ、エ／(2)ア、 ウ [思判表] 読む こと(1)ア、イ、 ウ、エ	<ul style="list-style-type: none"> ・構成に注目しながら、作品にこめられた思いを読み取る。 	<p>□『奥の細道』について知っていることを発表する。また、出典や作者などについては教科書の出典・作者紹介などで調べておく。</p> <p>【旅立ち】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1全文を通して概略を読み取る。 2旅立ちの様子とその時の心情を読み取る。(手引き1) 3「行く春や…」の句を解釈し、作者の心情を読み取る。 (手引き2) <p>【平泉】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1書かれている場所を意識しながら全文を通して概略を読み取る。 2作者は、どのようなものが滅び、どのようなものが残っていると述べているか、整理する。(手引き1) 3中国の故事「黄粱一炊の夢」と、杜甫「春望」の内容を確認する。 4高館で作者が「涙を落とし」た理由を考える。 5「夏草や…」「卯の花に…」の句を解釈し、曾良の句を置くことにより、どのような効果があるかを考える。(手引き2) 6「五月雨の…」の句に表現された作者の感動を読み取る。(手引き2) 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や
------------	--	---	---	--

			<p>7 自然と人為について作者はどう考えているのかをまとめる。(手引き 3)</p> <p>□『奥の細道』の文学史的位置について理解する。</p>	<p>他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>[主] 進んで文章の構成や展開について理解し、学習課題に沿って、作品に込められた作者の思いを読み取ろうとしている。</p>
書く 〔言語〕 文学碑を調べる P 204 1 時間	[知技] (1)ア [思判表] 書くこと(1)ア	・ 地域の文学碑を調べ、集めた材料を吟味し、整理する。	<p>□自分の住んでいる地域に関わる文学作品や作家について知っていることを発表し合う。</p> <p>1 教科書に掲載された例を参考にしつつ、「文学碑」の概略を理解する。</p> <p>2 自分の住む地域にはどのような文学碑があるのか確認する。 (課題 1)</p> <p>3自分が興味を持った文学碑について調べ、[ワークシート例]を参考にして整理する。 (課題 2)</p> <p>4 3を基に、自分の住む地域と文学との関わりについて、考えたことや気づいたことをまとめること。</p> <p>□地域にとって文学碑はどのような役割や意味を持っているのか、各文学碑の建立の経緯から考察し話し合う。</p>	<p>[知技] 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <p>[思判表] 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。</p> <p>[主] 進んで文学碑について理解し、学習課題に沿って、地域の文学碑を調べ、集めた材料を吟味し、整理しようとしている。</p>
読む 古典芸能へのいざない 〔言語〕 P 206 1 時間	[知技] (2)ア [思判表] 読むこと(1)エ、オ ④ 読むこと(2)オ	・ 古典から受け継がれてきた芸能について調べ、理解する。	<p>□古典芸能について知っていることや、見たことのある作品などを発表する。</p> <p>1 教科書の解説や掲載された写真なども参考にしつつ、「能」「狂言」「人形浄瑠璃」「歌舞伎」の概略を理解する。</p> <p>2 古典芸能の作品を一つ選び、(調べる項目の例)を参考にして調べ、まとめる。(言語活動)</p> <p>3 2をもとに、調べたことを発表し合う。(言語活動)</p> <p>4 2で扱った作品について、劇場や演芸場での鑑賞、テレビ放映や、ビデオ・DVD、CDなどの映像、音声資料</p>	<p>[知技] 我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。</p> <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主] 進んで古典芸能の概略を理解し、学習課題に沿って、古典芸能について調べ、理解しようとしている。</p>

			<p>での鑑賞を行う。</p> <p>□古典芸能の鑑賞を行い、感想を話し合う。</p> <p>□古典芸能の特徴や魅力を自ら説明する。</p>	
読む 文体の変遷	P 211 1時間	<p>[知技] (2)ア、イ、オ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)エ、オ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な文体の変化について、実例に即しながら理解を深める。 <p>□話し言葉と書き言葉、小論文の文章とメールの文章などの例を考える。</p> <p>1 「古典の文体」を読み、漢字で日本の言葉を書き記すために積み重ねられてきた工夫について理解し、気づいた点や、興味・関心を持った点を挙げる。(課題1)</p> <p>2 「近代の文体」を読み、書き言葉を話し言葉と一致させる「言文一致体」について理解し、気づいた点や、興味・関心を持った点を挙げる。(課題1)</p> <p>3 日本語の文体がどのように変化してきたかについて、教科書に掲載されている文章なども踏まえながら話し合う。(課題2)</p> <p>□古典から近代までの流れをまとめる。</p> <p>□「近代の文体」の文章を現代の文章と比べる。また、日常の話し言葉と比べ、「言文一致体」について考える。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>[主] 進んで歴史的な文体の変化について理解を深め、学習課題に沿って、実例に即して気づいた点や興味・関心を持った点を挙げたり、日本語の文体の変化について話し合いをしたりしようとしている。</p>

漢文編4 史話（3月）

読む 史話一三編	P 256 3時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話の展開や登場人物の言動を読み取り、史話のおもしろさを味わう。 <p>□これまでに読んだ中国古典の史話の中でおもしろかったもの、印象に残ったものを発表する。</p> <p>【曹公戰於白馬】</p> <p>1 通読し、全文を現代語訳する。（手引き1）</p> <p>2 時間の経過と各時間帯の状況を捉える。（手引き2）</p> <p>3 苟攸の作戦がどのようなものだったか、順を追って整</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的な背景について理解を深め、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。
-------------	--------------	---	---	--

			<p>理し、まとめる。（手引き 2）</p> <p>【曹公以關羽為義】</p> <p>1 通読し、全文を現代語訳する。（手引き 1・2）</p> <p>2 登場人物の性格や当時の状況について考える。</p> <p>3 曹操が側近に対して「勿追也」と言った理由を、「曹公義之」をもとに考え、話し合う。（手引き 3）</p> <p>【魏武捉刀】</p> <p>1 本文を音読し、再読文字について確認する。</p> <p>2 話の展開に従って前半・後半の二つの段落に分ける。</p> <p>3 本文を書き下し文にし、現代語訳する。</p> <p>4 「帝自捉刀立牀頭。」という行動から、どのような意図が読み取れるか考える。（手引き 1）</p> <p>5 「魏武」が匈奴の使者を殺させた理由について考える。（手引き 2）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 <p>【主】 進んで話の展開や登場人物の言動を読み取り、学習課題に沿って、史話のおもしろさを味わおうとしている。</p>
<p>書く 〔言語〕『三国志』の英雄ポスターを作る</p> <p>P 262 1 時間</p>	<p>[知技](2)ア、イ [思判表] 書くこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな人物を選び、調べて得た情報を的確に整理して、人物像が伝わるポスターを作る。 	<p>□歴史書の『三国志』と歴史小説の『三国志演義』との関係や、両者の違いなどについて理解する。</p> <p>1 どのようなポスターにするかをイメージする。（課題 1）</p> <p>2 取り上げる人物を決めて、その人物についてのエピソードや評価などを調べる。（課題 2）</p> <p>3 集めた情報を整理し、キャッチフレーズを考えるなどして、ポスターにまとめる。（課題 3）</p> <p>4 ポスターを読み合い、気づいたことを伝え合う。（課題 4）</p> <p>□ポスター作りとその後の話し合いを振り返り、相手に何かを伝える際に気をつけるべきことを考える。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 <p>【思判表】「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。</p> <p>【主】 進んで調べて得た情報を的確に整理し、学習課題に沿って、人物像が伝わるポスターを作ろうとしている。</p>